

第2章

母親クラブの事業活動

1. 親子及び世代間の交流、文化活動
2. 児童養育に関する研修活動
3. 児童の事故防止等活動
4. 児童館日曜等開館活動
5. その他、児童福祉の向上に寄与する活動

母親クラブはこれまで、地域における児童福祉の向上を図るために上記の5項目について活動をしてきました。本章では、それぞれの活動毎に具体的な活動の様子を紹介します。

1. 親子及び世代間の交流、文化活動

(執筆担当：北海道・東北ブロック)

ねらい

現代社会は、少子化・高齢化が進む現状にあります。地域では核家族が増加し、町の中心部ではお年寄りだけの家庭、あるいは若い親子だけの家族が多く見受けられます。

そのような中で母親クラブには、親子及び世代間交流、文化活動を促進していくことが期待されています。お年寄りとの交流を通じて子どもたちに何を伝えるのか、そしてまた何をどのように伝えていたらよいのか等の課題を実現するべく、次の2点を中心に活動しています。

①地域での子育て支援

②子どもたちに「人に対する思いやり」や「情緒の豊かさ」を学ばせる

地域社会の温かく優しい思いを育むこと、それが地域の子育て支援団体としての母親クラブの使命であると信じ、今日もまた日本のあちらこちらで“親子及び世代間の交流、文化活動”の輪を広げる活動を展開しています。

内 容

①「子どもの日」や「敬老の日」の利用、あるいは「家庭の日」を設ける等、活動しやすい環境を作っていきます。

②親子やお年寄りとの交流を目的に、野外での交流活動を企画、実行しています。読書会、映画会、人形劇サークル、地域文化の伝承サークル、料理教室等の文化活動も行います。

活 動

行事の立案から当日の運営までを行います。

①企画立案

年度行事を組み立てます。「子どもの日」「敬老の日」や地域の夏祭り、文化祭等の日程を考慮します。経費のこともきちんと決めておきます。

②周囲への呼びかけ

母親クラブの活動に興味を示してくれる地域のさまざまなネットワーク（体育振興会、子育て支援団体、児童館等）に協力を呼びかけます。母親クラブが主催する場合も、他の団体と共に催す場合もあります。

③運営会議

共催団体、協力者を交えて打ち合わせを行います。行事の内容の確認、役割分担、備品の調達、会場設営、安全管理等を明確にすることで当日の運営が円滑に進みます。（通常1～3回開催）

④広報活動

たくさんの参加者を募るために、効果的な告知方法を考えます。町内回覧板、区報、ポスター、パンフレット等を利用します。児童館の子どもたちにポスターを書いてもらうこともあります。

⑤ボランティア

人手不足の場合は、老壮クラブ等、地域のボランティア団体に依頼し、当日の運営に協力をしてもらうことがあります。

⑥当日運営

行事の関係者全員が顔を合わせるのは当日の朝であることが多い、そのためにも事前の運営会議で細かな役割分担を決めておくことが大切です。行事の進行はもちろんですが、安全・衛生面には細心の注意が必要です。子ども参加行事では周囲の交通安全にも気を配ります。

活動の具体例

①センターまつり（夏の大縁日）

地区センター主催の夏祭りに母親クラブも参加しました。縁日の出し物であるヨーヨー釣りやボールすくい、綿飴等の店を出し、トスケ（=くじ）や菓子づかみ等もやります。近所の寿会の方々による腹話術や手品等の出し物もあります。

②お正月の集い

地域の年配者の協力を得て、子どもたちに昔ながらのいろいろな遊びを教えます。竹とんぼ、お手玉等を作って遊んだあとは、年配者のみなさん

と子どもたちの交流会です。

③ 餅つき大会

子どもたちが「餅つき体験」をします。昔ながらの“うす”と“きね”を使ってお米からお餅の形にします。

④ ジャンボのり巻大会

水の森子育て支援クラブの“ジャンボのり巻（長さ30メートル）大会”は、10年前から実施しています。親子、祖父母の三世代が参加できる楽しい行事です。ラップを机に敷き、特注の海苔の上に20～25kgの寿司飯を乗せ、その上にかんぴょうや卵焼き等の具材を乗せてみんなで一斉に巻いていきます。



「餅つき大会」三世代で食べるお餅はとってもおいしいです



水の森子育て支援クラブの「ジャンボのり巻き大会」

2. 児童養育に関する研修活動

(執筆担当: 東海・近畿・北陸ブロック)

ねらい

児童の健全育成・福祉の向上を図るために母親クラブは研修活動を行います。

- ①児童の養育や児童福祉に関する正しい知識を学んで、会員自身の資質向上をはかる。
- ②会員相互の親睦・交流によって、信頼感を培う。
- ③自己研鑽によって自らの意欲の向上を図る。

内 容

①形式

研修会の内容を充実したものとするため、それぞれの分野に詳しい専門的講師による講演会の開催、フォーラムの開催、分科会方式による意見・主張の交換および交流によって会員同志のアドバイスを促します。また、出前型研修会も開催します。

②テーマ

日常生活における親子の絆の問題、地域の中での連携の運び方、父親・母親の子育て支援の心の置き方・持ち方等を重点的テーマとするほか、現代的な問題も適宜取り上げます。

活動（方法、具体例）

①企画

年度当初から企画し、活動の第一歩は研修会によって始まります。毎年の流れを考えながら全国的な研修テーマを具体化し、地域のニーズに合わせて研修テーマを決定します。今なにを一番親が望んでいるか、今一番取り組まねばならないのはなにか、その日の置き所・知恵の出し所・会員パワーの出し所が重要となります。

例えば、「食育について」、「環境（遊び、非行、風紀等）」、「道徳とは」、「本の読み聞かせ手ほどき」、「しつけ問題」、「親の役割、子どもの役割を寸劇で表現」等、いろいろな工夫を通して会員に理解と意識の高揚を図るよう検討します。

②研修会で学ぶこと

● 子どもを見て学ぶこと

例えば、健常児・障害児への教育観の違いとして、健常児の視点から見て良かれと作ったスロープでも車椅子に乗った子どもにしてみれば、いつも協力してくれた友達がいなくなることになります。自らの五感によって、子どもからいろいろな発見・感動をもらい、共に育っていくことを学びます。

● 本の読み聞かせから学ぶこと

研修会参加者が本の読み手と聞き手に分かれ、本を読みあうことによって子どもの気持ちになりきり感動を覚えます。感動の受け方は人さまざまですが、参加している一時は日ごろの仕事、子育て、家事から開放され一息入れる時間です。そして明日からの子育て・家事・仕事に立ち向かうきっかけとなります。

● 寸劇を通して学ぶ母親クラブ活動

役員選考の難しさ、企画・立案の重要さを表現した寸劇から、一人で悩まず、みんなで知恵を出し合って解決の糸口を見出していくこと、地域活動の必要性・重要性を学びます。そして組織充実へ向けての意識改革の足がかりともなり新会員には感動的なものです。

● 「食育」「道徳」から学ぶこと

子どもの心を支えるものとして一家団欒・我が家家の食卓が、なんといっても不可欠です。子どもたちに未来を架ける大人の第一歩として、地域での連携を密にし家族を愛する仲間、子どもを愛する会員同志が手を携えて行う「食育」には、心癒す栄養素がたっぷり入っています。

「道徳」は多くの人の交わりによって育ちます。子どもたちへの養育の原点は家庭です。みんなで支える地域づくりから児童の養育活動へと意を新たにする交流が生まれます。

③研修活動を通しての留意点

● 研修会で受けた経験・感動を活かし、他の会員に伝えていく努力を忘れない。

- 会員同志のアドバイスを大切にし、参考となることは活かしていく寛容さを持つ。
- 悩み事はみんなの知恵で解決し、大きな問題は官民一体となる良い機会と捉える。
- 人間味溢れる人づくりに向けて母親クラブが中心となり地域活動をするため、地域での役割を見極め連携プレーの方向性を探りあてる。



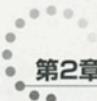
研修会では意見交換もさかんに行われます



読み聞かせは、子どもの気持ちになりきり、感動を覚えます



寸劇は皆で作りあげる楽しさ、演じる楽しさがあります



3. 児童の事故防止等活動

(執筆担当：関東・甲信越ブロック)

ねらい

子どもの事故は、交通事故、転落、溺水、回転ドアの巻き込み、エスカレーターでの将棋倒し、誤飲、遊具による事故等、さまざまなところで日常的に起きています。また、最近は犯罪に巻き込まれるケースも目立っています。

これらの事故や犯罪から子どもたちを未然に守っていくのも母親クラブの活動です。

内 容

各クラブの地域性を重視し、それぞれが独自に地域の交通安全点検と教育、危険箇所の改善、パトロール、救命救急法の実習と指導等、さまざまな内容と工夫で多年にわたり活動し、すでに地域に根付いています。

また、事故防止の活動は、母親クラブが独自で行うものもありますが、地域の町会、青少年委員会、婦人会、観光協会等、あるいは行政に提案したり、それからの提案に協力して実施することもあります。

①「遊び場安全点検活動」

平成15年度から「母親クラブによる全国一斉遊び場安全点検週間」を7月第2日曜日からの1週間と定め、点検活動を実施しています。

- 母親が、公園を利用する子どもの目線や動きを考えながら公園と遊具等を丁寧に点検する。
- 子どもたちの事故と危険を事前に察知する。
- 地域の遊び場をより安全な場所として改善し、維持していく意識を持つ。
- 市区町村の児童遊園担当部署や地域住民の協力を得、継続的で有効なものへと発展させる。

②「公園クリーン運動」

遊び場の環境作りとして次のような活動をします。

- 子どもたちと公園で遊ぶ計画をたて、遊んだ後には全員で公園や通路の清掃。
- 子どもたちと一緒に、草取り等の清掃を定期的

に行い、花を植え、育てる。

- 公園の管理を地域で担当する。

③「交通安全」

安全な通学路を確保するために次のような活動をします。

- 通学路に立ち、安全指導をする。
- 交通安全マスコットを配布する。
- 大型紙芝居を作成し、交通安全指導に役立てる。
- 通学路にあるカーブミラーを磨く。
- 「通学路の安全マップ」を作成し配布する。

④「安全パトロール」

地域に不審者等が入り込まない、犯罪を起こりにくくする目的で実施します。

- 定期あるいは不定期に、大人が地域パトロールを実施する。
- パトロール中には、子どもたちに声かけをし、遊び方の注意や帰宅を促す等の指導をする。
- この地域には「大人の目がある」、「犯罪や事故を許さない」という警告を示す意味が大きい。

⑤「消防署見学」

地域環境の整備等身近にできる防災活動への意識を育てるために行います。

- 隊員から実際の消火活動を通じての話を聞き、火災の恐ろしさを知り、防災意識を高める。
- 救急法の指導を受ける。

⑥「登山道作り」

観光地を有する地域では、地元に育つ子どもたちに、観光エリアを皆で守り、より良く整備する体験をします。

- 環境を守るために、登山ルートを確保し、登山道を整備する体験をする。

活 動

単位クラブにおける「遊び場安全点検」は平成15年度より実施されました。実施の方法は地域により多少の相違はあるものの、おおむね次のようなものです。

①実施前の話し合い

各地協は行政担当部署に、母親クラブ活動そのものと当該活動について充分な理解を得るために、話し合いを重ねます。

- この活動の目的が行政の不備を指摘するものではないことを充分説明します。
- 担当部署の協力が不可欠であることを示します。
- 具体的に点検を実施する公園を取り決めます。

②実施研修会

実際の安全点検実施前に、研修を行います。

- 各地協は公園等に「遊び場安全点検週間」の、のぼり旗を掲げます。
- 地協役員および単位クラブ代表者、また行政担当者、児童館職員も立会いのもと、点検の主旨、方法を説明確認します。
- 安全点検マニュアルに沿って点検活動を実施します。

③点検実施

各単位クラブは、あらかじめ取り決めた公園等を担当します。点検は会員と児童館や地域住民が協力し合って実施します。

- 安全点検の中で危険、不具合と思われる遊具等については写真に撮り記録します。

④結果報告書

- チェックリストと所見を添えた報告書が地協に提出され、地協は取りまとめの上、行政担当部署と全地協に提出します。
- 全地協では、各地協の結果を集計・とりまとめを行って「結果報告書」を作成します。
- 各地協や関係部署へ配布し、報道機関への情報提供を行います。

⑤改善箇所

- 滑り台やブランコの腐食・欠落
- ガラスの散乱や汚損
- 利用者の服装の不備
- 保護者の監督の不備

⑥安全点検活動の周知活動

- ハザードに関する大型紙芝居を作成し、親子の鑑賞会を開く。

● ビデオを利用した研修会を実施。

● 子どもたちにも安全点検に参加をさせる。

多くの行政担当部署では、提出されたものを参考に改善に向け速やかに取り組んでいただけました。

また、改善のための活動や作業に、行政との協働で自らも参加したクラブもあります。公園内外の環境も必ずしも整備されていない、という現実も確認しました。また、実際の点検活動の様子がTVや新聞で報道され、問い合わせを受ける等反響の大きさにも驚きました。

安全点検活動は、母親クラブが何をしたら良いのか、何ができるのかを考える良い機会となります。



救命救急法の実習は真剣そのもの



子どもの目線や動きを考えながらの「遊び場安全点検」



4. 児童館日曜等開館活動

(執筆担当：九州ブロック)

ねらい

私たち地域活動（母親クラブ）の拠点である児童館・児童センターの開館について、全国地域活動連絡協議会に属する県・市における状況を調べてみました。その結果、日曜日に開館している施設は予想以上に少ないことがわかりました。

①開館の理由

市町村の条例によるもの、また利用者の必要性から、例えば父親と子ども、勤めている母親あるいは両親と子どもが日曜日にも児童館を利用できるよう開館する。

②閉館の理由

条例がない、地域のニーズがない、スタッフの確保が困難（予算的にも）、管理が困難、日曜日は家庭で過ごす。

以上、各々の理由を踏まえ、保護者の労働時間や休日の変化に配慮し、児童の健全な居場所作りのため、各行政機関と地域のボランティア組織、なかでも私たち母親クラブがお互いの協力のもと実施してきました。

内 容

「児童館日曜開館促進費・抜粋」（平成16年度をもって廃止）は以下のとおりです。

①趣旨

児童館を児童健全育成に関する拠点としてさらに活性化していくことが必要であり、中央児童福祉審議会においても、児童館など地域における遊びやスポーツ活動等への休日等における父親の積極的な参加を図ることや、児童館の日曜開館の推進等を図ることが必要であるとの指摘がなされている。このため、児童館に登録された地域のボランティア組織が、日曜が閉館の児童館において、児童と父親等の交流活動等を実施する場合に必要な消耗品費、安全保険料等の補助を行い、児童館の日曜開館を促進するものである。

②助成用件等

対 象　日曜日閉館の児童館を活用して親子交流や居場所作りを行うことを目的とした、母親クラブや青年ボランティア団体（VYS）の単一組織、あるいはその複合団体、または児童館の日曜利用のために構成された地域住民による組織であって、代表者を有する組織。

登 録　児童館に登録（1児童館に1組織）。地域組織の登録は市町村（児童館）が呼び掛けを行い調整を図る。

活動内容　地域組織が日曜日・祝日に児童館を利用、月1回以上親子行事等の諸活動を実施。

③対象経費

地域組織が助成を受けた活動費の使途は、親子行事等（卓球大会、伝承遊び大会、日曜大工、囲碁・将棋大会、国際交流）に要する消耗品費及び医薬品費、事故等に係る児童安全共済掛け金、親子行事のお知らせ作成費等の経費に充てるものとすること。

活動

①施設事業日程との調整

土・日は三世代会員や家族参加の可能性が広がり一般利用者にも地域活動周知の良い機会となります。



みんなの幸せを願ってトーチランに参加しよう！

②土日に開催しやすい行事例

総会、バザー、クリスマス会等

③児童館（児童センター）と共に開催する行事

花壇土作り、芋の苗植え、そうめん流し、親子手芸教室、子どもの文化の祭典、しめ縄作り、鏡開き、年末の大掃除、避難訓練等

各地の活動具体例

●鹿児島県 鹿屋市児童センター（月曜休館）

開館当初から、市の方針で心の健康の必要性を認識し、地域社会に密着した施設を目指しています。なかよしクラブ等3つの地域活動と鹿児島県地協の活動拠点で、施設事業日程と調整し、新年度の行事を計画します。避難訓練等施設と共に開催したり、土・日は三世代会員や家族参加の可能性が広がり一般利用者にも地域活動周知の良い機会となっています。

●山口県 山口県児童センター

会員や県民のニーズに応え、土・日・休日の開館を実施しています。一般的な休日にあたる日は親子連れや家族の来館が多く、市外や県外からの参加もあることから、土・日に行事を組むようにしております。好評です。山口県地協の事務局があり、山口県児童センター母親クラブとの共催で三世代交流事業として「子どもの浴衣着付け教室」とお抹茶席をセットにし、お母さんが点てた抹茶を浴衣姿の子どもが高齢者の元へ運びます。

●沖縄県 那覇市壺屋児童館

市長の公約により、平成14年8月から全日開館し、月曜日の開館は母親クラブから2名と嘱託職員1名を含む3名が担当しています。当初は日曜日の担当でしたが、月曜日担当に変わってからは「児童館日曜等開館促進費」の対象にはなっていません。母親クラブでは250名の会員が活動しており、組織がしっかりしています。児童館は街中にありコミュニティー的役割もあり、他の利用者や三世代交流を視野に入れています。児童館と地域活動はとても深い関わりを持ちながら互いに信



三世代交流事業「子どもの浴衣着付け教室」



頼関係を築いています。

●島根県 平田市伊野児童館

平成15年度に行われた児童館の改装工事を機会に、館長や市の担当者に児童館日曜開館を相談し、機能アップを図り、さまざまな活動に活かせればと補助金をいただくことになりました。日曜開館は月2~3回程度で、地区のイベント時等児童の居場所づくりをしています。

※活動事例紹介

- 4月 手作り昼食&おやつ作り、母の日プレゼント作り
- 5月 地区内バレーボール大会日の子ども達の休憩・昼食お預かり
- 7月 児童館お泊り会
- 8月 ジュニアバレー合宿、手作りおやつ夏休みバージョン
- 10月 お父さん手作り昼食会
- 3月 卒業生を囲んでみんなでゲーム

5. その他、児童福祉の向上に寄与する活動

(執筆担当:中国・四国ブロック)

ねらい

母親クラブの合言葉「まちの子は みんなわが子」が児童福祉の心を表しています。イベントで地域を知り、人を知る。老若男女地域住民の心が通うためには、日常生活の中で子育て支援の意識を持ち、子どもを見かけたら必ずひと声かける。そこからが子育て支援の始まりです。

①家庭での養育機能プラスワン

共働きの家庭はもはや一般的となり、仕事と子育ての両立は避けて通れません。また、車社会の副産物で隣近所の人と顔を合わすことも、言葉を交わすことも少なくなり、核家族の中で子どもの生活体験も幅が狭く、成長過程における養育機能が低下しています。家庭や家族だけで充足できない社会性や耐性を、地域ぐるみの子育てで補う必要があります。

②地域の触れ合いから

少子・高齢社会において、地域の触れ合いから子育て不安の解消、親子の仲間づくりができ、基本的生活習慣、社会規範の修得が自然に身についてきます。それを実現するための地域活動が児童福祉の向上につながります。母親クラブは、地域の中核となり「百人の一歩」でそれを進めていきます。わが家の子どももと思って声をかけること等、地域ぐるみで子どもを見守る活動をしています。

内 容

地域活動は、大人が子どもに「声をかける」という身近なことに真剣に取り組み、その輪を広げていくことによって、地域の教育力の向上、児童福祉の向上の一端を担っていくことができるといえます。

①託児

母親クラブ主催の研修会、イベントはもちろん、行政や他団体の行事の際、託児を受け持ちはます。特に子育て真っ最中の若い親が参加する講演会等では、先輩の母親クラブ会員がこれにあたります。

②児童クラブ支援

放課後児童対策で、原則小学1~3年の学校から帰宅後養育者がいない家庭を対象としています。区・市町村によっては「留守家庭児童学級」等名称はいろいろです。子どもたちは、学校から直接決められた場所（学童クラブ）に立ち寄り、区・市町村で定めた時間まで遊びや宿題等をして過ごします。児童クラブの行事に母親クラブの会員がお手伝いをしているところもあります。

③愛のひと声運動

街外れの人通りの少ない道、コンビニの駐車場、人家や建物のない場所等、どんなところでも子どもたちを見かけたら、ひと声かけることで危険防止や非行を未然に防ぐ地域力となることができます。

④区・市町村、児童館、他団体との協働

行政や児童館、他団体が児童福祉に関する研修やイベントを行うとき、主催や協力団体として参画し、協働、協力の形で取り組みます。

活 動

地域住民、老若男女がすれ違いにもあいさつできる信頼構築のために、イベントやその地区に伝わる行事等に家族ぐるみで参加します。

- 研修会
- あいさつ運動、声かけ運動
- ふれあい活動
- 児童クラブ支援
- 児童館、児童センター協力
- 子育て支援センターとの連携
- NPO等他団体との連携
- 行政、他団体とのネットワークづくり
- 託児、子どもの預かりっこ
- 親子の居場所づくり
- 地域の安心、安全活動
- 独居の高齢者訪問

具体的活動例

●「会員研修会」 鳥取県

子どもたちのことを考えた時、親たちが閉鎖的にならぬようにすることが必要です。暮らしの中で周りに話せる雰囲気があるとお互いに悩みを話すことができ、親同士の関係が子どもたちの関係にも微妙に影響すると思うからです。研修・交流の場を設けることで“子どもたちの生活環境を向上させることのできる親”を育てていけることを信じて、会員研修会という形で活動しています。

●「一人暮らしの住居へサンタクロースになっていこう！」 島根県

児童館が自由解放型になってから3年目、初めての年（平成14年）から続けています。いつもは何でも与えられ手に入る子どもたちが、与えられるばかりでなく自ら相手を思いやって与えることもできるようにと、クリスマス用に、12月23日にみんなでマドレーヌを作り、一人暮らしのお年寄りの家へ持っていきます。子どもたちは、おじいさん・おばあさんが喜んでくれるのがすごくうれしいと感じたり、家族がいて良かったと感じたりします。学年もさまざまですが、「思いやりと勇気の心」のプレゼントを持ったかわいいサンタさんたちです。

●「ふれあいクラブ」 岡山県

倉敷北児童センターで月2回開催されている「ふれあいクラブ」に参加し、子どもと一緒に季節の花や野菜を育て収穫する喜びを味わったり、



行事を通して、子どもとたくさん会話をします

また、輪投げやペタンク等の競技を通して楽しく遊び、交流を深めています。6月にさつま芋の苗を植え、11月には大きく育ったさつま芋掘りに挑戦しました。子どもたちの顔がいきいきと輝いています。収穫後に皆で食べたお芋はとってもおいしかったヨ。

●「乳幼児親子に対する子育て支援」 広島県

子育て支援活動に参加して、児童館や行政、子育て支援に取り組む他団体との連携が必要と痛感しました。そこで、平成15年、行政や専門機関、民間グループ等のネットワークを発足させ、三原市全体の子育て環境向上のため事務局・情報の窓口の役割を果たしています。

●「乳幼児親子に対する子育て支援」 広島市

平成16年度から各区の地域子育て支援センターとの連携を深めるために「子育て親子交流の場」へスタッフとして参加を始めました。オープンスペースの開設、子育てガイドマップの作成、子育て支援連絡会等の活動をしています。地域の子育て支援関係者が連携することで、効果的・効率的に地域の子育て家庭に対する育児支援の推進を図ろうと取り組んでいます。

●「ジャンボかるたで親子共育」 山口県

「空までとどくよ お父さんの肩車」。読み札は日常の子育てをテーマに会員から募集しました。県内のいたるところでジャンボかるた大会が行われています。ゲームにルールやマナーは欠かせません。ジャンボかるた取りを通して、まさに、楽しみながら親子が共に育っていきます。イベント



遊びを通して、ルールやマナーを学ぶことができます

や行事に「家族ぐるみで参加」を提唱し、三世代をセットにした遊び方をみんなで考え、学びの場づくりをしています。

●「子どもSOS」 香川県

子どもと地域の人々との日常的な触れ合いや通学路の安全点検、登下校の交通指導、あいさつ運動に取り組んでいます。活動時に「子どもSOS」のプレートを付け、活動の周知に努めています。子どもたちにとって「子どもSOS」プレートがあるだけでお守りのような安心感があるようです。また、第2土曜日にビーズと5円玉で亀を作る会を開き、子どもたちと話をし、いろいろな体験を伝える機会を作っています。

●「コスモス祭り」 愛媛県

各種団体からの託児要請や夜間託児を受け、3歳児教室の手伝い（人形劇やゲーム）、保育所での敬老会で交流の手伝いをしています。また、毎年、町主催の「コスモス祭り」で“お遊び広場”を担当します。今年も、「作って遊ぼうコーナー」「子育て相談コーナー」を設けました。町内外からの親や子ども、お年寄りが多数参加し、ふれあい交流の場となり、和やかな一日となりました。



子どもたちは、自分で作ったおもちゃで遊びました

●「身近にある地域住民の声かけ運動」

こんな光景に出会ったことがありませんか？

【ケース】

小学生が学校からの帰り道、コンビニの前でランドセルを下ろしてふざけています。自転車に乗ってきた中学生が自動販売機で何かを買おうとし

ましたが、お金がないのか小学生に向かって「おい、金、120円これに入れろ」と。小学生はポケットから財布を出して120円を取り出し、しぶしぶ入れました。中学生は出てきた缶ジュースを持って去っていました。

よく注意して見ていないと分かりませんが、小学生はおどされたようでした。周囲はまったく知らぬふり。しかし日常的にふれあいがあり、顔見知りの人も1人や2人はいたに違いありません。地域のみんなが子育て支援者という意識があれば、ひと声かけたに違いありません。

【ケース2】

就学前の男の子が女の子の顔にプラスチックの水鉄砲で水を飛ばしています。女の子の目のあたりに水しぶきが当たって泣いています。車が止まり、降りてきたおばちゃんは両手を広げて、「ストップ！ 目が“やめて！”って言ってるよ」と少しおどけてその場を制し、男の子に「水鉄砲は人に向かって撃つものじゃないのよ。お空に向けて撃ってごらん。どれぐらい高く上がるかな。あと○○ちゃんにも撃たせてあげたら」と。男の子はすぐに水鉄砲を女の子に渡しました。実にうまい裁きです。

過去の活動で掲げた全国統一スローガン

- 子どもの声は ちいきのいのち
- みんなで育てる 地域の子
- 母親クラブの ネットワークで みらいの主役に 気配りを

こうした日常生活の中での小さな行動が地域の教育力や児童福祉の向上につながります。

何時でも だれでも どこでも できる！

児童福祉は、子どもを取り巻く生活環境すべてが関わってきます。大人社会の有様が刻々と摺り込まれていくので、大人は日常的に言動や判断、人間関係等に気配りをする必要があります。地域の私たちにできる一番身近な福祉は、社会を構成できる一人の大人になれるよう、何事にも良識を示すことです。